



一西人儀無謂事ニ托シ苦情等申立其上恣ニ横濱  
表ハ罷越約定面ニ相背キ不都合ニ付右ブリエナ  
ハ申談去月三十日放還ノ儀相違尤歸國旅費等ハ  
條約通不相渡本月五日富岡出立為致候此候御届  
申上候也十一月十五日  
大藏

五月十二日 七年

富岡製絲場雇佛人ジエスタンベランエ、パーブラー西  
人條約ニ違フト云フヲ以テ雇ヲ止メ給料旅費ヲ給ス

内務省上申

上州富岡製絲場御雇佛人製絲検査人ジエスタンベ  
ランエ、パーブラー西人儀無謂事ニ托シ苦情等申立  
其上恣ニ横濱表ハ罷越約定面ニ相背候ニ付同御雇  
佛人製絲場首長ポレブリエナハ申談放還ノ儀相  
違尤歸國旅費等ハ條約通り不相渡富岡出立為致候  
致昨明治六年十一月十五日大藏省ヨリ上申致シ置  
候更右バラン外一人儀富岡製絲場御雇以來正實ニ  
職務相充セ居候ハ横濱表ハ要用有之候ニ付ブラー  
ハ首長留守中故バランノ許可ヲ得其上掛リ官員ノ

許可ヲモ受出立致シテランハ首長ハ允許相願候處  
 被差拒候ニ付掛リ官員ハ申立候ハ此是又首長ノ許  
 可無之上ハ難差許旨申聞有之候ニ付無餘儀同所出  
 立横濱表ハ罷起候儀ニテ尤許可ナク出立候節ハ給  
 料日割ヲ以テ減才受候儀ト心得立戻リ候後兩人共  
 居館粗悪ニ付病ヲ受候ニ至リ候間其旨首長ハ申立  
 奏約離去ノ儀願出其節ハ勤中及ヒ尔後ニケ月分ノ  
 給料共帰路旅費ノミ受取度役申立置候儀ノ処首長  
 ブリユナヨリ放職ノ儀談受候ハ此ヤランハ外出中  
 ノ給料日割ヲ以テ去相成候ハ覺悟ニ候ハ此兩人共  
 違約ノ筋ハ無之旨ヲ以テ期年中ノ給料及ヒ帰路ノ  
 旅費食料等ノ代金償共受取度旨横濱在雷佛國領事  
 ノ手ヲ經テ出訴及ヒ候趣ニテ右訴訟ニ對スル答辨

書取調可差廻旨外務省ヨリ掛合有之候ハ兩人訴訟  
 ノ趣意實際不條理ノ筋モ有之候ニ付製練場掛リ官  
 員共ブリユナヨリ申立ノ趣ハ居館不十分ノ由モ離  
 去ノ口實ニテ無謂儀ニ有之且出立候節ノ奉動等モ  
 不其其餘不都合ノ件モ有之候間首長於テ右躰ノ者  
 ハ已後手下ニ使ヒ候儀難相成段等申立兩人共職務  
 ノ怠リ約條面ニ違背及ヒ候ニ付放職為致候儀ニ候  
 間其旨逐一答辨及ヒ置候ハ同省於テ取調中佛國公  
 使ヨリ尚又同様ノ趣意ヲ以テ外務省ハ掛合越候ニ  
 付同省於テ最前當省ヨリ相達シ置候前書答辨ノ趣  
 及返簡候由ニ有之候然ル処同公使於テハヤラン外  
 一人申立ノ如ク期年中ノ給料共旅費等悉皆御渡  
 相成適當ノ筋ト被存候由ニテ右謀決定相成候欤或

ハ西人ト和氣相成候欽ノ兩條ニ相成候様致シ度段  
及依類候趣ノ書翰再應差越候旨ニテ當省見込等可  
申越様外務省ヨリ尚又掛合越候処元來西人雇入ノ  
節首長ブリユナト同人共ノ間ニ於テ取結置候條約  
面ニ西人ニ於テハ各其任セラレタル用向ヲ正實ニ  
充タシムルヲ約束ス且年限中ハ用向ニ注意スル  
丁ヲ約セシ儀ニ有之然ルニ同人共其職務ニ不注意  
ナレトハ勿論首長ノ不在中恣ニ離去スルヲ量リ  
候等ノ行蹟右約条ノ棄ニ違背イタシ候ニ依リ取職  
及ヒ候儀ニ付公使申立ノ趣意ハ適當不致候間給料  
及ヒ旅費等可差違第ニ無之被存候ハ共同省於テモ  
和氣取扱候才相當トノ見込ニモ候ハ、尚打合越候  
様及回答置候ニ付此上外務省取調ノ模様ニ依リ候

ラハ公使ハモ談判ノ上和氣取扱候順序ニ立至リ可  
申儀モ可有之ニ付尚談判ノ模様等詳細ノ儀同省打  
合ノ上追テ上中可致候ハ共先以此段申上置候也  
十二月 内務

内務省伺

上州富岡製絲場御雇佛人ジユスマンベランエ、パ  
ーブラー西人僱勤務上不注意ノ趣等同御雇首長ホ  
ーレブリユナヨリ申立モ有之條約面ニ違背イタシ  
候ニ付同人ハ委託ノ上取職才ヨヒ候処バラン外一  
人於テハ條約面ニ違背イタレ候儀ハ無之旨ヲ以テ  
横濱在留同國領事ノ手ヲ經テ及訴訟候末尚同公使  
ヨリモ外務省ハ懇々書面ヲ以テ申立候趣同省ヨリ  
掛合越候ニ付夫々及答解置候趣等ハ本月十二日委

曲上申イタレ置候儀ニ有之然ル処今般外務省取調  
 ノ趣ハ前書向人儀製絲場ノ事務ニ不注意トノ儀ハ  
 外ニ何等ノ確証ニテモ有之候ハ、格別此上別ニ条  
 約面違背ノ確証ナク徒ニ不注意トノ條ノミヲ以テ  
 處分候儀ハ何様公使ハ及引合候トモ到底承取致間  
 敷就テハ條約第四條ニ據リ処分相成候故又ハ再々  
 兩人共製絲場ハ使役相成候故兩條ノ内ニ早々決定ノ  
 上確答有之度旨再應掛合越候ニ付篤ト勸考イタシ  
 候外外務省於テ右兩條ノ外ハ何様公使ハ引合候ト  
 モ承取イタス間敷トノ見込ニ候上ハ到底談判纏リ  
 方ノ手段モ無之實ニ不得止次第ニ付同省見込ノ内  
 ヲ以御決議相成候ヨリ外有之間敷候ハモ再々兩人  
 共製絲場ハ使役相成候節ハ雇中ノ給料共在務中ハ

一人一个月金六十六圓ツ、賄料トモ可相渡ハ勿論  
 帰路ノ旅費ヲモ早晩可相渡答ニ有之其上兩人共最  
 前製絲場退去候節居館弊悉ノ由ヲ口實トイタシ居  
 候儀ニ付再々雇返候節ハ同様ノ苦情可申唱ハ必照  
 ノ儀ニ有之勿論新營ノ居館モ既ニ建設ニハ相成居  
 候ハモ周圍外構其他室内ノ雜作等ハイマモ著手無  
 之候間目今移住為致候ニハ多少ノ失費モ相掛リ候  
 儀殊ニ最前ブリユナヨリモ申立ノ如ク外國ノ檢査  
 人ハ無之トモ製絲場ノ事業ニ於テハ聊差間ノ儀モ  
 無之既ニ是迄御雇ノ佛國女工等ヲモ追々暇差出退  
 去為致候儀ニテ全ク無用ニ屬シ候間穿御雇返レノ  
 儀ハ差止候方ト被存候ニ付條約第四條ニ因リ期年  
 中ノ給料及モ旅費トモ兩人共合計洋銀七千八百六

十弗給英相成候方却テ多少ノ冗費モ相省ケ可申候  
間漸然右様御決裁相成度存候然ル上ハ右ノ趣ヲ以  
テ外務省ヘ確答可致候間前書洋銀七千八百六十弗  
ハ臨時費ヲ以テ御渡相成候様致度候條大蔵省ヘ御  
連有之度右ハ外務省於テ公使ヘ談判ノ順序モ有之  
候間至急御許可相成候様イタシ度存候此段相同申  
候也 五月三十日 内務

○

リオン 佛國 地名 ガレ 街名 第三番ニ住居シタレハクト、  
リ、アンターレ 氏社中トイセ 州名 シヤボン 地  
名ニ住居シタレ向戸ノ雇人ジウスタン、ハララン  
氏トノ間ニ次ノ如ク談判ニ及ハリ  
一 日本政府ハ日本ノ絹ヲ一層進歩セシムルノ目的

ヲ以テ現ニ三百釜ノ製絲所ヲ歐羅巴風ニ造立ス  
ヤク相決シボール、ブリユナ氏ニ此製絲所ノ棟梁  
タレトヲ委任シタレハ都合次第「ブリユナ氏要用  
ノ者ヲ歐羅巴ニ於テ雇入ル、トヲ「ハクト、リ、ア  
ンターレ社中ニ命シタリ  
一 都テ要用ナル感、推ハ千八百七十年第十月二十九  
日江戸ニテ決定調印シタレ條約ニ因テ「ブリユナ  
氏及「ハクト、リ、アンターレ氏社中ニ共ヘラレタ  
リ但此誓約ハ横濱佛國領事廳ノ簿書ニ判然記録  
スル処ナリ

一 此形状ニ於テ「ブリユナ氏ハ「シウスタン、ハララン  
氏ア此製絲所ノ検査役トシテ来ル「ト云セ入レ  
シニ「シウスタン、ハララン氏モ此事ヲ承諾シテ次

ノ條約ヲ結ベリ

第一條

シウスタン、バルラン氏ハ製練所但フリユ  
ナ氏ノ指揮ニ從ヒ働クベキニ於テ日本政府ノ雇  
入トナレハシ

一シウスタン、バルラン氏ノ役ハ製練所ヲ検査スレ

トニ於テブリユナ氏ヲ補助シ其他進歩ノ事務ノ

為メニブリユナ氏於テ要用ナルト考ヘシ諸事ハ

都テ同氏ノ命ニ從ヒ之ヲ為スヘシ

一購買入ノ時候又ハ都テ工場ノ為メニ奔走スルト

旅行スルトハ其時々ブリユナ氏ノ指揮ヲ受クハ

シ

第二條

シウスタン、バルラン氏ハブリユナ氏ノ指  
揮ニ從ヒ十月十五日發程シテ同氏ブリユナト共

ニ同月廿九日乗船スヘシ且往返共ニ飛脚船中ニ

テハ中等ノ部屋ニテ經過スヘシ

一ジクスタン、バルラン氏ハ製練所ヨリ住居ヲ受取

ルヘシ且食物ハ工場中自他ノ雇人ト均シク三ヶ

月間ハ無代ニテ製練所ヨリ給與スヘシ

一以後ハ自賄タルヘシ此事ニ付テハ償金ヲ許スヘ

シ但償ハ製練所ニ於テ試験三ヶ月間平均入費ニ

テ勘定スヘシ

第三條

バルラン氏ハ任セラレタル用向ヲ正實ニ  
充タシムルヲ約束ス且年限中ハ用向ニ注意ス  
ルヲ約セリ

一若シ同氏要用有之ブリユナ氏ノ免許相受ケ不申

四日以上不在ノ時ハ最初ノ度ハ同氏給料ニ割合

大正

引才相受ケ可申重獲ノ節ハ償却ノ沙汰ニ不及帰國ノ旅費モ共フルナク暇出シ能フヘシ

第四條 意外ノ道理ニ因リ又ハ「バ」ラシ氏ノ好ミニアラステ日本政府ヨリ條約未滿前ニ同氏ニ暇差出スナレハ同氏給料全額及ヒ佛朗西マテノ帰旅ノ費用ハ日本政府ニテ必ス拂フヘシ

第五條 「バ」ラシ氏職掌ニ於テ條約ニ違背シ日本政府ヨリ暇請レ時日本政府ハ同氏ヲ使用セル月ノ未迄ノ給料ノミヲ同氏ニ拂フヘシ即チ第七條ニ記載シタル金高ヲ引去ルヘシ

第六條 病氣ノ節差圖ノ醫料藥料ハ製練所ノ擔當タルヘシ

一病ノ次第ニ因テ仕事出来ザル中ハ現在ノ條約察

乘スルノ理アルヘシ然レドモ「バ」ラシ氏ハ暇受ル日マテノ給料及ヒ帰旅ノ費用ヲ請取ルノ理アルヘシ

第七條 「バ」ラシ氏ハ條約中四年ノ間「キ」レコ「シ」コ「テ」百五十弗ノ月給ヲ受取ルヘシ

一是ノ給料ハ「ブ」リ「ユ」ナ「氏」ト共ニ乗船ノ日ニ初ルヘシ尤三分ノニハ毎月相求メ外ノ三分一ハ「パ」クト「リ」・「ア」ン「タ」ール「社」中ニ預ケ條約滿限ノ期迄受取リ能ハサルヘシ

一第三條及第五條ニ証據立テタル條約ヲ廢却スルノ場合ニ於テハ是ノ預リ金ハ日本政府ニ拂返スヘシ

第八條 現在條約ノ模様ハ十八百七十年十月二十



九日ノ條約ニ從ヒ双方俱ニ無理ノナキ採取極リ  
タルモノナリ但此條約ハ四年間ニシテ則千八百  
七十二年一月一日ニ初リ千八百七十五年第十二  
月三十一日ニ終ルハシ然レモ三年ノ歳末則千八  
百七十四年第十二月三十一日ニ至リ日本政府ノ  
都合ニ因テハ是ノ條約ヲ廢シ能フハシ

一千八百七十三年ノ歳尾ニ至リ製所ニ損失ノミ相  
立且將來ノ利益聊モ得難シト認ムナレハ是又日  
本政府ニ於テ雇ノ條約ヲ都テ廢棄スルノ理アル  
ハシ是ノ場ニ於テ雇人等ハ働キシ丈ケノ給料又  
帰途ノ費用ノミハ請取能フハシ

第九條 條約仕遂ケ方ニ付差起レレ都テノ難件ヲ  
決斷スレニ條約人共ハ横濱領事廳ニ設置セル裁

判所ノ決斷ヲ仰クハレ且上告スルコトナクレテ是  
ノ裁判所ノミニテ取捌クハレ

第十條 現ニ製絲所ノ棟梁タル「ボールブリユナ氏」  
ハ中間ニ相立此條約ヲ承知ス然レモ「ヤムラシ氏」  
ニ對シ日本政府ノ此約束ヲ仕遂ムルニ拘テハ「ブリ  
ユナ氏」及「ヤクトリ、アンター」社中ト雖モ決レ  
テ請合サレヌナリ

リオンニ於テ  
千八百七十一年十月十日  
「ボールブリユナ」同  
「ヤクトリ、アンター」同

及社中  
「ボールブリユナ」同

リオン 佛國ガレー街名第三番ニ住居シタル商人「ハ

大正裁判

クトリ、アンターセル及セ社中ト「アルデシウ」州名ノ  
 アルシアンテヌル地名ニ住居シタル高戸ノ雇人「ポ  
 ーレ」ラット氏トノ間ニ次ノ通り談判ニ及ヘリ  
 一日本政府ハ日本ノ絹ヲ一層進歩セシムルノ目的  
 ヲ以テ現ニ三百釜ノ製絲所ヲ歐羅巴風ニ造立ス  
 べく相決シ「ポール」フリユナ氏ニ此製絲所ノ棟梁  
 タル「ト」委任シタルハ都合次第「フリユナ」氏要員ノ  
 者ヲ歐羅巴ニ於テ雇入レ、ト「ハ」クトリ、アン  
 ターセル社中ニ命ジタリ  
 一都テ要員ナレ威權ハ千八百七十年第十月二十九  
 日江戸ニテ決定調印シタル條約ニ因テ「フリユナ  
 氏」及「クトリ、アンターセル」社中ニ與ヘラレタリ  
 但此誓約ハ横濱佛國領事廳ノ簿書ニ判然記録ス

ル欠ナリ

一此形状ニ於テ「ブリユナ」氏ハ「ポール」フラット氏ヲ  
 此製絲所ノ検査役トシテ来ル「ト」云セ入レシニ  
 「ポール」フラット氏モ此事ヲ諾シ次ノ條約ヲ結ハ  
 リ

第一條

「ポール」フラット氏ハ製絲所但「ブリユナ」ノ指  
 揮ニ從ヒ働クヘキニ於テ日本政府ノ雇人トナル  
 べレ

一「ポール」フラット氏ノ役ハ製絲所ヲ検査スル「ト」ニ  
 於テ「ブリユナ」氏ヲ補助シ其他進歩ノ事象ノ為メ  
 ニ「ブリユナ」氏於テ要員ナレト考ヘレ諸事ハ都テ  
 工場ノ為ニ奔走スルト旅行スルトハ其時々「ブリ  
 ユナ」氏ノ指揮ヲ受クヘレ

第二條 ホーレフラット氏ハブリユナ氏ノ指揮ニ  
從ヒ十月十五日癸程シテ同氏「ブリユナト保ニ同  
月廿九日乗船スヘシ且往返共飛脚船中ニテハ中  
等ノ部屋ニテ經過スヘシ

一 ホーレフラット氏ハ製絲所ヨリ住居ヲ受取ルヘ  
シ且食物ハ工場中自他ノ雇人ト均シク三ヶ月間  
ハ無代ニテ製絲所ヨリ給與スヘシ

一 以後ハ自賄タルヘシ但此事ニ付テハ償金ヲ許ス  
ベシ但此償ハ製絲所ニ於テハ試験三ヶ月ノ間平  
均ノ入費ニテ勘定スヘシ

第三條 ホーレフラット氏ハ任セラレタル月向ヲ  
正實ニ充タシムルヲ約束ス且年限中ハ月向ニ  
注意スルヲ約セリ

一 若レ同氏要用有之「ブリユナ氏ノ免許受ケズシテ

四日以上不在ノ時ハ最初ノ度ハ同氏給料ニ割合  
引ケ方相受ケ可申重役ノ節ハ償却ノ沙汰ニ及ハ  
ス帰國ノ旅費モ與フレ「ナク暇出シ難クヘシ

第四條 意外ノ道理ニ因リ又ハ「ホーレフラット氏  
ノ好ニアラズレテ日本政府ヨリ條約未滿前同氏  
ニ暇差出スナレハ同氏給料全額及ヒ佛朗西「マテ  
ノ帰旅ノ費ハ日本政府ニテ必ス拂フヘシ

第五條 ホーレフラット氏職掌ニ於テ條約ニ違背  
シ日本政府ヨリ暇受ル時日本政府ハ同氏ヲ使用  
セル月ノ末マテノ給料ノミヲ同氏ニ拂フヘシ則  
テ第七條ニ記載シタル金高ヲ引去ルヘシ

第六條 病氣ノ為差圖ノ醫料藥料ハ製絲所ノ擔當

マレハシ

一 病ノ次第ニ因テ仕事出来サレ片ハ現在ノ條約ハ  
棄棄スルノ理アレハシ然レ氏「ポールプラット氏  
ハ概受ル日迄ノ給料及セ帰旅ノ費用ヲ受取ルノ  
理アレハシ

一 第七條 和「レブラット氏ハ條約中最初二年  
間ハ「メキシコニテ百弗宛ノ月給ヲ受取ルハ「後  
ノ二年間ハ「メキシコニテ百二十五弗宛ノ月給  
ヲ受取ルハシ

一 是ノ給料ハ「ブリユナ氏ト共ニ乗船ノ日ニ初ルハ  
シ最三分ノ二ハ毎月相求メ他ノ三分一ハ「クト  
リ「アンタール社中ニ預ケ條約満限ノ期マテ請  
取ルハサレハシ

一 第三條及セ第五條ニ証據立テタル條約ヲ棄却ス  
ルノ場合ニ於テハ是ノ預リ金ハ日本政府ニ弗セ  
返スハシ

第八條 現在條約ノ模様ハ千八百七十年第十月二  
十九日ノ條約ニ從ヒ双方共ニ無理ノナキヤウ取  
極リタレモノナリ但此條約ハ四年間ニシ則チ千  
八百七十二年第一月一日ニ初リ千八百七十五年  
第十二月三十一日ニ終ルハシ然レ氏三年ノ歳尾  
則チ千八百七十四年第十二月三十一日ニ至リ日本  
政府ノ都合ニ因テハ是條約ヲ棄シ能フハシ  
一千八百七十三年ノ歳尾ニ至リ製練所ニ損失ノミ  
相立チ且將來ノ利益聊モ得難シト認ルナレハ是  
又日本政府ニ於テ雇ノ條約ヲ都テ棄棄スルノ理

アルハシ是ノ場合ニ於テ雇人等ハ働キシ丈ケノ  
給料及ヒ帰途ノ費用ノミハ受取り能フヘシ  
第九條 條約仕遂ラ方ニ付差起レル都テノ難件ヲ  
決断スルニ條約人共ハ横濱領事廳ニ設置セル裁  
判所ノ決断ヲ仰グヘシ且上告スルヲナクシテ是  
ノ裁判所ノミニテ取制クヘシ

第十條 現ニ製絲所ノ棟梁タルポール、ブリユナ氏  
ハ中間ニ相立テ是條約ヲ承知ス然レモ、ポール、ブ  
ラツト氏ニ對シテ日本政府ノ是條約ヲ仕遂ル  
ニ拘テハ、ブリユナ氏及ビ、ハクトリ、アンタール  
社中ト雖モ決シテ請合ハザル也ナリ

リオニ於テ  
ハクトリ、アンタール調印  
ポール、ブリユナ全  
千八百七十一年十月十日

エ、プララツト全

内務省ノ問合 左院 財政課

富岡製絲場元御雇佛人、ペラン、外一人及訴訟候儀ニ  
付外務省再應掛合ノ未洋銀七千八百六十弗別途御  
出方ノ儀御上申相成候也右兩人元雇給料等一ヶ月  
何程ニテ何月ヨリ何月起且旅費等ハ何程ニテ右金  
額ニ相成候哉明細内譯承知致度候條至急御取調御  
廻答有之度此段及御問合候也 六月五日 内務

内務省回答 左院 財政課 宛

富岡製絲場元御雇佛人、ペラン、外一人及訴訟候儀ニ  
付外務省再應掛合ノ未洋銀七千八百六十弗別途御  
出方ノ儀相伺置候處右兩人元雇給料并旅費等明細  
内譯御承知被成度旨御掛合ノ趣承知致シ候別紙

仕譯書差進候條委細右ニテ御承知有之度此段及田  
答候也六月七日 内務

仕譯書

一洋銀七千八百六十弗

内譯

洋銀四千二百八十弗

内

洋銀三千九百弗

給

料

是ハ明治六年十一月ヨリ同八年十二月マ  
デ二十六ヶ月分但シ一ヶ月百五十弗宛如  
斯

洋銀三百八十弗

帰國旅費

是ハ條約面通り中等郵船賃

附

一ヶ年過カナリ

洋銀三千九百弗

給

料

内

全 八年一月ヨリ十二月迄ノ給料千八百弗差  
別給與スヘキ分

二十百弗

洋銀三千五百八十弗

フ

ラ

内

洋銀三千二百弗

給

料

是ハ明治六年十一月十二ヶ月分ハ一ヶ月  
百弗宛同七年一月ヨリ同八年十二月迄二  
十四ヶ月分ハ一ヶ月百二十五弗ツ、合計  
如斯

洋銀三百八十弗

歸國旅費

是ハ前同断

洋銀三十二百弗

給料

八年一月ヨリ十二月迄ノ給料千五百弗差

引給英スヘキ分

千七百弗

右ノ通候也 内務

内務省ハ問合 左院財務課

富岡製絲場元御雇佛人ヱラン外一人及訴訟候儀ニ

付外務省掛合ノ未洋銀七千八百六十弗別途御出方

ノ儀御上申ニ付右金高内釋及御問合候外御回答書

中帰國旅費三百八十弗ト有之佛國ハ何レ迄ノ御調

ニテ右金員ニ相成候哉承知致度候条速ニ御取調御

回答有之度候也 六月八日 内務

同省回答 左院財務課宛

富岡製絲場元御雇佛人ヱラン外一人及訴訟候儀ニ

付洋銀七千八百六十弗別途御出方ノ儀及上申置候

外右内釋御問合ニ付及回答置候外書中帰國旅費三

百八十弗ト有之佛國何レ迄ノ調ニテ右員數ニ相成

候哉御承知被成度旨尚又御掛合ノ趣我承知候右ハ

同御雇佛人首長ポルブリユナトノ約定面ニ諸職

人等旅費ハ中等郵船賃片道分前書ノ額相渡候答取

極有之候間右約定通相渡候積ヲ以取調候儀ニ有之

候此段及再答候也 六月日 内務

左院議抄 法副課主査 内務外務財務三課歴査

別紙内務省伺富岡製絲場元御雇佛人ペラン外一人  
訴訟ノ未決費等別途御渡相成度儀及審察候外無届  
數日不在致シ候ハ職業上不注意ノ虞ニモ相當リ候  
ハ共同人條約第三條ニ無届四日以上不在ノ時景初  
ノ度ハ給料ニ割合引方相受可申云々有之然ルニバ  
ラン外一人ノ不在ハ初度ノ違則ニテ到底第三條ニ  
據リ給料ニ割合引方致シ候儀至當ニ有之候也今般  
裁還ノ談判相成候上ハ第四條ニ據リ旅費等別途御  
渡相成候外無之ト存候尤第八條一千八百七十四年  
第十二月三十一日ニ至ツテ政府ノ都合ニヨリテハ  
此條約ヲ廢シ能フヘシト云々然レハ右ペラン外一  
人政府ノ都合ニヨリ此條約ヲ廢棄スルハ素ヨリ政  
府ノ推内ニ有之候ハハ給料ノ儀ハ本年十二月三十

一日迄給與致シ可然ト存候仍テ御違裁御指令按共  
相添仰高裁候也 六月廿三日 内務

御指令按

伺ノ趣西人共雇セ相止候儀聞届候条々約第八條末  
文ニヨリ一千八百七十四年即本年十二月三十一日  
限条約廢棄ノ際ヲ以テ本年中ノ月給共第四條旅費  
共合セ四千八百四十弗五十七セメント可相渡候条大  
蔵省ヨリ可請取事

内務省伺

上州富岡製絲場御雇佛人ジュスタンバラン又、バ  
ーブラー及訴訟候儀ニ付外務省掛合ノ未給料其外  
ニテ合洋銀七千八百六十弗給與相成候答別途御出  
方ノ儀去五月三十日相伺置候処イヤ々御指令無之



然ル処其後猶佛國公使ヨリ申立ノ趣モ有之候ニ付  
 外務省於テ逐次談判ノ上別紙計算書ノ通渡方相成  
 候積談判相纏リ候段尚又同省ヨリ申越候ニ付テハ  
 最前相伺置候額ハ御取消相成更ニ右計算書合洋銀  
 四十八百四十弗五十七セント至急別途御渡相成候  
 様致度候條速ニ大蔵省へ御達有之度尤本月中ニ確  
 答不致候テハ食料等多少ノ増額ニモ相成不都合ノ  
 寮モ有之候間今日中御許可相成度存候此段再應相  
 伺申候也六月廿九日 内務  
 同ノ通金額別途可相渡候條大蔵省ヨリ可受取事六  
 月三十日

外務省ヨリ差越候  
 計算書

プラ氏ノ計算

千八百七十三年第十一月及第十二月分給料

二百ドル

同七十四年第一月第二月及第三月分給料

三百七十五ドル

同年第四月一日ヨリ同月七日迄七日間

二十九ドル十七セント

同年第十月八日ヨリ同十二月三十一日迄

三百四十六ドル七十七セント

帰國旅費 三百八十ドル

リヨンヨリマルセイユ港迄ノ旅費

十八ドル二十セント

富岡ヨリ横濱

二十ドル三十九セント

三日ノ給料千八百七十二年第十月二十九日ヨリ同月三十一日迄

九ドル六十八セント

食料千八百七十三年第十一月一日ヨリ一个月六十六ドルニテ

三百四十五ドル四十セント

同千八百七十四年第四月八日ヨリ一个月四十一ドルニテ

百十四ドル七十五セント

通計千八百三十九ドル三十六セント  
ブラ氏十日間缺席償金三十三ドル三十三セント  
ヲ引去リ

總高千八百六ドル三セント

バラシ氏ノ計算

千八百七十三年第十一月十二月給料

三百ドル

同七十四年給料

千八百ドル

帰國旅費 三百八十ドル

リヨンヨリマルセイユ港マテノ旅費

十四ドル五十セント

富岡ヨリ横濱マテノ旅費

二十五ドル三十九セント

三日間ノ給料 千八百七十三年第十月廿九日ヨリ同月三十一日迄

十四ドル五十二セント

八ヶ月食料 千八百七十二年十一月一日ヨリ 一月  
同七十四年第七月一日マテ 一個  
月六十六ドルニテ

五百三十ドル十三セント

通計三千六十四ドル五十四セント

ペラン氏六日間缺席償金三十ドルヲ引去リ

総高三千三十四ドル五十四セント

二口總計

洋銀四千八百四十ドル五十七セント

大蔵省へ送

別紙内務省伺富岡製絲場元御雇佛人訴訟ノ儀未書  
ノ通及指令候條洋銀四千八百四十弗五十七セント別  
送渡方可取計一旨相達候事 六月三十日 内務

左院議按

法副課主査  
内務外務財務三課登査

別紙内務省伺製絲場御雇佛人訴訟ノ未別送御渡金  
額ノ儀取調候処景前上申致シ置候額外食料等相増  
シ候差金二百八十弗五十七セントニ相成候処右ハ  
不得止儀ニモ有之且一日ヲ違ノスレハ數百ノ差ヲ  
相生シ候ニ立至リ可申依テ右ハ速ニ御裁可相成可  
然存候就テハ御達按ノ儀景前上申致候儀議按中ハ掛  
紙ヲ以テ改正致シ本件ニハ御指令按而已相添仰高  
裁候也 六月廿九日 内務

内務省届

上州富岡製絲場元雇佛人ペラン外一名放職ニ付可  
相渡給料旅費合計洋銀四千八百四十弗五十七セン  
ト先般伺ノ上渡方外務省へ相托シ候処猶於同省日  
割ヲ以精算ヲ遂候処九弗九十九セント割餘相成候

正業典

趣ヲ以送付有之候ニ付大蔵省ハ送納取計申候此段  
上申候也十月十二日 内務